

青森県西北地域における木質資源の活用推進に向けた取り組み

青森県西北地域県民局地域農林水産部 主査 對馬 学

1 はじめに

近年、原油価格の高騰や地球温暖化対策などにより、木質資源の活用推進の機運が高まってきており、当地域においても平成20年に県内初となるペレット生産工場が2箇所稼働し、木質資源の利用拡大の動きが出始めている。しかし、山元では、木材価格の低迷等により、間伐材など切り捨てられたままほとんど利用されずに放置されており、山元にある木質資源の活用推進が課題となっている。

こうした木質資源の利用促進のため実施した各種取り組みについて紹介する。

2 これまでの取り組み

林内に放置される低質な間伐材や林地残材の利用促進のため、平成20年度から平成21年度までの2年間「西北地域木質バイオマス普及推進事業」を実施した。

(1) 事業内容

①西北地域木質バイオマス普及推進研究会の設置

県や市町村、ペレット生産組合等の関係団体を構成メンバーとし、木質バイオマス利用促進に当たっての問題点や普及方策等について検討した他、同研究会の活動の一環として、木質バイオマス燃料の普及促進を図るため、一般県民を対象としたペレット加工施設の見学会やペレットストーブの展示会の開催、ペレットボイラー利用啓発リーフレットの作成・配布等を実施

②木質バイオマス地域課題調査の実施

木質バイオマスのエネルギー利用について、一般県民の意向を把握するためのアンケート調査を実施

③ペレットボイラー活用委託調査

木質バイオマスの優位性を検証するため、ペレットボイラーと石油ボイラーのトータルコストの比較検証等を外部委託により調査

(2) 成果

①西北地域木質バイオマス普及推進研究会の取り組みによる成果

研究会では、木質バイオマス利用促進に当たっての問題点（間伐コストや需要者、供給者双方の情報共有の不足など）が明らかになった他、また、ペレット加工施設の見学会やペレットストーブの展示会等の開催においては他地域を含む多くの一般県民が参加し、この取り組みの効果もあって、平成20年度から22年度の3年間でペレットボイラーは5基、ペレットストーブは163台それぞれ増加した。

②木質バイオマス地域課題調査結果

アンケート調査の結果、「ペレットストーブを使ってみたい」と思っている人が6割いた一方で、「ペレットストーブ購入に当たっての問題点」として「ストーブの価

格」及び「ペレットの価格」を選択した回答が4割を占めるなど、ペレットストーブ導入に当たっての価格面での問題が明らかになった。

③ペレットボイラー活用委託調査結果

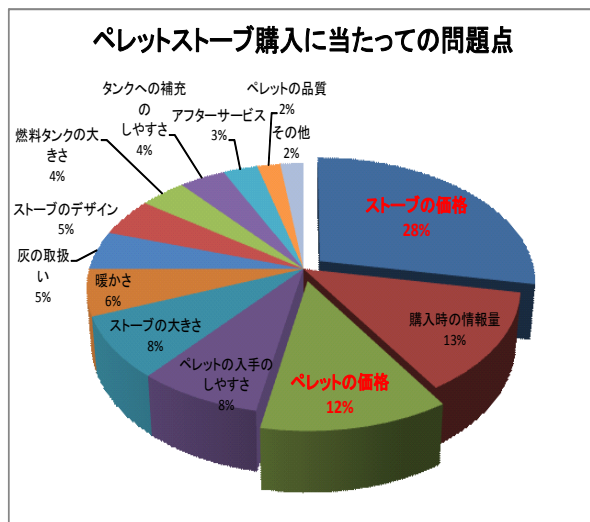
ペレットボイラーと石油ボイラーのトータルコストの比較検証については、灯油焚きボイラーと比較した場合には灯油単価が90円/L後半～100円/L台以上となったときにペレットボイラーが有利となり、A重油焚きボイラーと比較した場合にはA重油単価が70円/L台後半～80円/L台以上となったときにペレットボイラーが有利となること明らかになった。



西北地域木質バイオマス普及推進研究会



ペレット加工施設の見学会



一般県民に対するペレットストーブアンケート

施設	比較対象とした化石燃料	化石燃料単価 (円/L)※	採算分岐点となる化石燃料単価 (円/L)
特別養護老人ホームA	灯油	60.0	101
特別養護老人ホームB	灯油	63.8	97
室内温水プール	A重油	61.0	84
宿泊施設	A重油	54.0	78

化石燃料単価とペレットボイラーの経済性の関係

※ 2009年1～2月時点の単価

(3) 課題

西北地域木質バイオマス普及推進事業での各種取り組みの結果、ペレットストーブ等の導入については増加しつつあるものの、ペレット加工施設で使われる低質間伐材を含めた間伐材全般の利用率は、約6%しか活用されていない実態が県の調査で明らかになった。

このため、いかにして間伐材全般の利用を進めるのか、利用と供給のマッチングのシステムの構築や低コスト間伐の推進も含め、改めて対策の見直しが必要となった。

3 今年度の取り組み

当地域における間伐材全般の利用率が低い状況に鑑み、その状況を改善するため、今年度、木質資源有効活用調査事業を実施した。

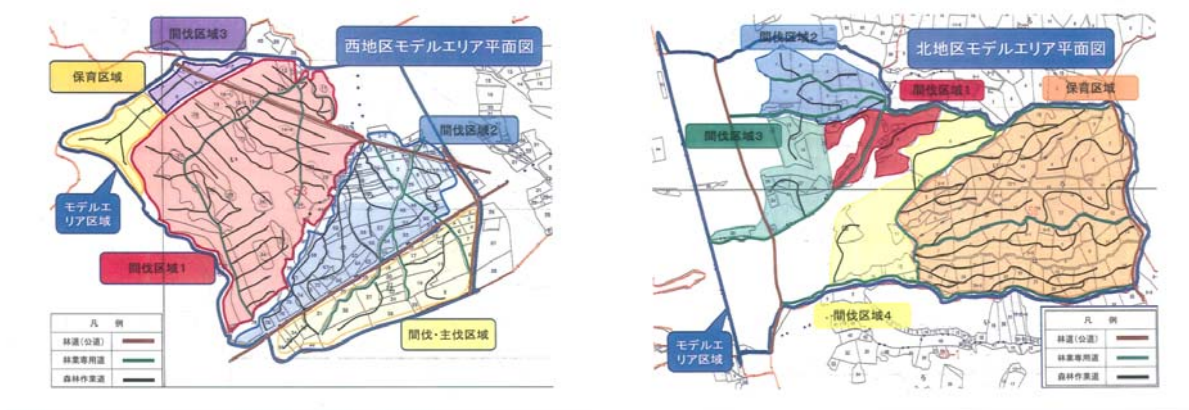
(1) 事業内容

① 西北地域木質資源有効活用推進協議会の設置

県や市町、ペレット生産組合、森林組合、製材団体など地域の関係者を構成メンバーとし、有識者の指導、助言を得ながら、木材需給実態調査で得たデータを基に、間伐木質資源の有効活用方法や需要と供給のマッチング等活用促進について協議を行った。

② 集約化施業モデルエリアの設置・検討

間伐コスト低減を図るため、路網整備や材の生産供給、収支計画を想定した集約化モデルエリアの設置及び低コスト作業システムについて有識者の指導・助言を得ながら検討を行った。



モデルエリア2地区の平面図

4 考察

今年度実施した木質資源有効活用調査事業の課題として、①設置したモデルエリア活用方法、②各現場にあった低コスト作業システムの確立、③需要と供給のマッチングの具体的方策などあげられるが、西北地域木質資源有効活用推進協議会において来年度以降も継続してこれらを検討し、間伐材利用向上のため取り組んで参りたい。